

高級特殊鋼「ヤスキハガネ」の部品などを製造する守谷刃物研究所（安来市恵乃島町）は時代のニーズに応え、さまざまな製品を送り出してきた。自動車の油圧ポンプ用の部品「ベーン」は世界屈指のシェアを誇る主力製品で、需要は根強い。特殊な合金製の次世代モーター部品「積層モーターコア」も新たに手がけ、原点と言える刃物にも再び投入している。

ベーンは小さな板状の部品で、高い耐摩耗性があるヤスキハガネの特性が生かされた。もともとパワーステアリングの油圧ポンプ用に量産を始めた、国内外の自動車メーカー

高シェア企業 新分野も挑戦

守谷刃物研究所（安来）

次世代モーターの心臓部に当たる「積層モーターコア」



ーに供給してきた。パワステが電動に切り替わってきた現在でも、力の強い油圧が必要な無段変速機（CVT）などの需要がある。現在は月約500万枚を生産し、2023年3月期の売上高29億8100万円の約5割を占める主力製品だ。国内で手がけるのは3社しかないとい

い、大きな強みとなっている。油圧装置は簡単な仕組みで強い力が得られ、「数は減ってもニーズはなくなるらない」と守谷光広社長。実際、電気自動車化をにらんで一時期、モーターの開発にシフトしていた自動車メーカーが油圧装置に戻ってきたという。

一方で将来を見据え、モーター市場にも高付加価値の製品で乗り出した。一例が、鉄とコバルトの合金。パーメンジユールやアモルファス合金を使った積層モーターコア。モーターの心臓部に当たる部品で「空飛ぶクルマ」向けにも試作を進めている。

70年ほど前、日本刀の匠が起こした会社が手がけた製品は多岐にわたる。かつてはビデオデッキ用のモーターシヤフトを家電メーカーに供



高級特殊鋼「ヤスキハガネ」の部品を製造する守谷刃物研究所—安来市恵乃島町

【会社概要】

設立	1956年1月
事業	特殊鋼部品などの製造
資本金	1千万円
代表者	守谷光広
本社	安来市恵乃島町
従業員	約220人

給。国産H2ロケットの人工衛星を切り離すカッターも開発した。

近年、あらためて目を向けるのがプロ仕様の包丁やアウトドアナイフ用の刃物。小規模の専門業者が後継者不足などで廃業する中、引き合いが強まっており、海外の日本食ブームや高級志向のアウトドア人気も追い風とみる。

守谷社長は「ニーズに機敏に対応することが必要だ。時代のニーズに応え、必要とする顧客に届けたい」と話す。

（梶井映志）

隔週水曜日掲載